

香川県教育施策推進協議会第2回会議における主な意見

1 開催日時等

- (1)開催日時 令和3年1月14日(木) 15:00～16:45
 (2)場 所 香川県庁本館12階 第1・第2会議室

2 出席委員

会 長	野崎 武司	香川大学教育学部長
副会長	岩崎 敬子	香川県商工会議所女性会連合会会長
委 員	青井 静	香川県社会教育委員・家庭教育推進専門員 香川県子ども読書活動推進会議委員
	池田 信浩	日本放送協会高松放送局長
	和泉 和美	香川県PTA連絡協議会母親代表委員長
	猪熊 優子	香川県立龔学校 学校評議員 (元香川県立高松養護学校校長)
	漆原 光徳	四国学院大学教授(副学長)
	大林 典子	スクールカウンセラー・臨床心理士
	尾形 優子	メロディ・インターナショナル株式会社 代表取締役CEO
	尾崎 勝	伸興電線株式会社 代表取締役社長
	田中 敬子	観音寺市立豊浜小学校 学校運営協議会委員
	千切谷耕一郎	香川県高等学校PTA連合会会長
	坂東 民哉	香川県町教育長会会長 (小豆島町教育委員会教育長)
	古田 忠弘	株式会社四国新聞社編集局地方部長
	吉田 重隆	元香川県立農業経営高校校長 (藤尾八幡神社宮司)
吉田 秀典	香川大学創造工学部教授 (香川大学副学長)	

3 委員から出された主な意見等

項 目	意見等(要旨)
◆理念について	○ 子どもたちに身に付けさせたい資質・能力のうち、「社会の一員としての自覚と態度」という項目名については、子どもたちにこうあってほしい、こうさせるといったイメージを受ける。学びへのモチベーションが大事で、学校が学びたくなる場所であるべき。子どもたちの学びたい、伸びたい、チャレンジしたいという気持ちを現場の先生が後押しすることが読み取れるものになれば良い。
◆重点項目について	○ 「学力の育成」について、少人数学級や専科指導は拡充が記載されていることは評価できる。英語教育やプログラミング教育などもあり、より多くの教員の確保に努めていただきたい。

項 目	意見等（要旨）
<p>◆各論について</p> <p>① 確かな学力の育成と個に応じた教育の推進</p> <p>② 就学前教育の充実</p> <p>③ 特別支援教育の推進</p> <p>④ 校種間連携の推進</p> <p>⑤ 元気で安心できる学校づくり</p> <p>③ 魅力あふれ、地域と協働する学校づくりの推進</p> <p>⑤ 安全安心な教育環境の整備、充実</p> <p>◆教育の方向性について</p>	<p>○ 「グローバルな視点をもち郷土を支える人材の育成」について、県外から支えるというのがあるが、私はやはり「郷土で支える」ではないかと思う。県内で支えるという意識を盛り込めたら良いと思う。</p> <p>○ 重点項目と施策体系の関係性が分かりにくいと感じた。重点項目とリンクしているものもあるし、ないものもある。</p> <p>○ 現計画の「幼児期の教育の推進」から「就学前教育の充実」に変わっている。就学前教育だと、就学に向けた教育になると思う。幼児教育は人格形成のために重要な教育であることから、幼児期の教育に戻すことを検討して欲しい。</p> <p>○ 特別支援学校の高等部を卒業すると、ほぼ全員が就職する。松野文部科学大臣も特別支援教育の生涯学習化に向けてのメッセージを发出しており(平成29年4月)、本項目でも、特別支援教育の生涯学習化を盛り込んでほしい。</p> <p>○ 小中、中高と進む中で、特別支援学校との繋がりがうまく行っていない場合もある。本項目には、特別支援学校との連携も含めて欲しい。</p> <p>○ 県内の大学に進学すれば、卒業後に県内に残る割合が高いということもあり、高大連携を進める必要があることから、本項目での記載も検討して欲しい。</p> <p>○ 小豆島町でもコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に取り組んでいる。ぜひ、どこかでこれらも明記して推進して欲しい。</p> <p>○ 「感染症対策にも配慮」とあるが、現状を踏まえると「配慮」という言葉は弱いのではないか。</p> <p>○ 礼儀礼節も含め、特にコミュニケーション能力に課題がある新入社員が多くなっていると強く感じている。企業でも学校でもなかなか厳しく指導することは難しいが、そういう現状を反映し、良い方向に向かえばと思う。</p> <p>○ 教育関係団体からの意見でも、教育現場が疲弊しているという声が多いとのことであった。今回、「地域を担うグローバル人材の育成」など新たな項目も加わっているが、先生方の頑張りが重要となる。働き方改革などで、成果のある取組みをしてほしい。</p> <p>○ 今後、企業はジョブ型プロフェッショナル、スペシャリストを採用することになっていく。そのために大学、高校、中学校でどのような教育をするかが重要である。基礎学力を身に付ける中で画一的な教育を行うことはやむを得ないが、個別に対応していくという時代に差し掛かってきているのではないか。</p>